

令和6年度 筑後市立筑後保育所 自己評価結果

「保育所保育指針（平成29年3月告示、平成30年4月施行）」（以下「保育指針」という）において、保育士等及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられています。

また、筑後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例においても、特定教育・保育施設は、自らその提供する特定教育・保育の質の評価を行い、常にその改善を図らなければならないとされています。

このことを踏まえ、筑後保育所では保育の質の向上を図るために自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かしていくことで、より良い保育を提供し、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く、より深まるよう努めてまいります。

【評価のねらい】保育指針で示された方向性に沿った保育ができているかどうかを評価して、保育指針の改定内容の理解を深めるとともに、保育の改善に活かす。

【評価項目】①指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で評価する。

②保育の実施及び保育所運営に関する項目

【評価の判定】 ①については下記の基準で評価する。

- ◎＝10の姿の方向性につながる活動ができている。
- ＝10の姿の方向性に沿っているが、充実・改善等を要する点がある。
- △＝10の姿の方向性を意識した活動ができていない。

②については、

- ◎＝できている。
- ＝ある程度できているが、充実・改善等を要する点がある。
- △＝ほとんどできていない。もしくは、できていない。

【評価方法】 評価項目について、個々の保育士、職員が評価を行い、評価結果を持ち寄り、保育所としての自己評価を決定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

保育所保育指針第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第2章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づき、各保育所で乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。	
健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

1. 保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、保育実践を振り返り評価します。

1	健康な心と体	評価 ◎
	《共通》 ・次の活動を知らせることにより、意欲を持って行動できるよう働きかけている。また、安全に過ごす方法を教えることもあるので出来ていると思う。 ・生活や外遊びの際、やりたいことを尊重し必要な手助けをしていると思う。 ・身辺整理など自分のことは自分で出来るようにと保育の工夫をしている。また、怪我をしったり困ったことがあったときなど自分から誰かに伝える力を身につけるように働きかけている。 ・生活面で、自分から排泄や食事の準備など見通しをもって取り組むことが出来ている。戸外では、薄着や裸足で過ごすよう心掛け、園庭遊具や泥や水に触れながら積極的に遊び、遊びの中で自信や充実感を感じている。 ・自由遊びや散歩の時間など、個々でやりたいことを見つけて遊びこめる時間をつくっている。また、自分のタイミングで水分補給ができる環境づくりや、衣服の調整ができるような荷物の準備・声掛けを行うことは、健康な生活を作り出すことにつながっていると思う。 ・天気のいい日には散歩に出かけ、保育所では感じられない動植物に触れることで体力づくりにつながっていると考え。生活面では、排泄や給食準備の当番など見通しをもって取り組み、子どもたちの意欲的な生活を送ることができている。 ・興味のあることに意欲的に取り組む子もいれば、消極的で周りの様子を伺い、じっとしていることが多い子もいた。少しずつ環境に慣れ、初めてのことにも挑戦できるように楽しい雰囲気の中で、誘っていくうちに、いろいろなことに参加できるようになってきた。 ・寒い時期に外遊びで鼻水を垂らしながら水遊びをする姿があった。今日は寒いから土だけにするなどの考えまで持つことが難しい子がいた。自分で考える力を身につけるような声掛けが必要だった。ただ、インフルエンザやコロナウイルスが流行っているときも子どもたちは元気に遊び、感染する子どもが少なかった。 ・裸足で遊ぶことによって脳がどんどん刺激され、運動神経、発達にも好影響があるので、寒い時、足を怪我しているとき以外は裸足で遊ぶように声かけをした。感染症が流行したときは、手洗い、うがいなどを自分から進んで、自分のタイミングで行える環境作りをした。 ・戸外では元気に裸足で遊び散歩の時間ではしっかり歩くことで沢山身体を動かすことが出来た。自由遊びの時間では各々好きな遊びを行い片付けの時間を事前に伝えることで自分たちで時計を見ながら動くことも出来た。自分たちで水分補給や衣服の着脱を考えられるような声掛けをすることで健康な生活を作ることが出来た。 《3歳未満児》 ・子ども一人ひとりの月齢や成長に合わせて、無理のない範囲で、保育や活動に取り組めるように心がけてきた。 ・日々の気温や体調に合わせて、薄着を心がけ、その日の体調を考慮しながら、裸足で過ごすことで快適に生活できる環境を作ってきた。 ・薄着の生活を心がけ、毎日戸外へ出て、思いっきり体を動かして健全な体作りを行っている。毎日同じことを繰り返し行うことで、身の回りの事を少しずつ自ら意欲的に取り組んで行おうとする姿が見られるようになってきた。 ・天気が良い日は、戸外遊びを中心に過ごし、病気に負けない強い身体、体力作りを心がけた。休む子も少なく、一年間で力も強くなり、体幹も育ったように思う。 ・室内遊びでは、保育室やホールなど広さと安全性を確保したうえで体を大きく動かして楽しく遊ぶことができています。戸外遊びではボールを使って思い思いに体を動かし、散歩ではたくさん歩き体力をつけて動くことができています。あぜ道など安全な場所では手を放して走ることを意識している。 ・毎日の外遊びを中心とした活動を行ったことで、滑り台の山を登ったり、外でハイハイしたりして丈夫な足腰を育むことができたと思う。	

・薄着と裸足の生活を心がけ、毎日戸外で遊び、思いきり体を動かすことが出来ている。生活面では、自分から排泄や着替えなど見通しをもって取り組むことが出来ている。		
2	自立心	評価
		○
《共通》 ・集団の中で、どうしても動作がゆっくりでついて行けない子に対しての声かけの工夫を自分の中でもう少し必要かと思うので「○」の評価とした。 ・「次は何をする?」「どうしたらいいかな?」等をよく子ども達に言っている。そうすることで自ら考え、行動する姿が見られるので自立心を促せていると思う。 ・まだ改善は必要だが、できるだけ自分で自分のことを行えるよう、必要最低限の手助けや声かけを行うよう意識している。 ・運動会では、競技の練習であきらめずに取り組む力を伸ばすような声掛けや関わりを行った。 ・落ち着いた生活空間の中で、荷物の整理や衣服の着脱、汚れたときは自分で気づいて着替えるなど身の回りのことは自立心を持って積極的に取り組んでいる。 ・プール活動における着替え、給食当番活動、荷物の整理など、身の回りのことを自分で行うこと、また年下の子どもたちのお世話を通して、自分の力で考え行動することにつながっていると思う。 ・リュックを持つ、困っていることを言う、など自分のことは自分でできるように、子どもたちが自分で考えて動けるような声掛けやかかわりを意識した。できたときには大いに誉め、子どもたちと共に達成感や喜びを味わうことができた。 ・排泄の自立を目指し、トイレに行くことを習慣化してきた。排泄前後にパンツやズボンの着脱の練習もしており、日々の積み重ねで上手にできるようになっている。 ・自分のことは自分で出来るようになってきたが、脱ぎっぱなしになっていたりできないとすぐに出来ないと言っていてくる子がいるなかで、脱いだパジャマをきちんと畳んで片づけることができる子もいる。そのような子たちを褒めてみんなに促していく。 ・寒い時の外遊び、防寒具を着ていない子どもについて「ジャンパーは?」と声をかけてしまっていたが、子ども自身が寒いなら防寒具を着るし、保育士から言われて着るのではなく、子ども自身が自分で寒さを感じれることを意識するようにした。 子どもが「出来ない」と言うときにすぐに手をだしたくなっていたが、自分でどうすれば良いのかを考える時間を持たせ、その時間を大切に見守った。出来たことに対しては一緒に喜んだ。 ・身の回りの整理や衣服の着脱、給食当番等自立心を持って積極的に取り組んでいる。 縄跳び作りでは三つ編みがうまくできず何度も練習し出来なくて心が折れかける子もいたけれど励ましながら一緒に寄り添い諦めず最後まで出来て自信へとつながった。 《3歳未満児》 ・子どもの主体性を大事にし、必要に応じて声かけをし、自信や、やる気に繋がるよう、励ましながら、対応するよう、普段から意識している。 ・薄着の生活を心がけ、毎日戸外へ出て、思いっきり体を動かして健全な体作りを行っている。毎日同じことを繰り返し行うことで、身の回りの事を少しずつ自ら意欲的に取り組んで行おうとする姿が見られるようになってきた。 ・一年間を通じて、トイレトレーニングを粘り強く行うことにより、自信につながって、やり遂げる達成感も出来てきたと思う。これからも継続していくといいと思う。成功体験で自信をつけている。 ・ズボンやパンツ、靴の着脱などを自分でできるよう見守り、時に少しだけ援助し、できた時はたくさん褒めて達成感を味わってもらえたと思う。 ・トイレトレーニングを始めたことで自らの意思の下で排泄を行ったり、衣服の着脱を自ら行おうとする姿が多くみられる。また、やる気が出なくて動けないときにも周りを見て一緒にしようという気持ちも芽生えている。やる気を認め、できたことを褒めることで自信につながっている。 ・荷物の整理や衣服の着脱、汚れたときは自分で気づいて着替えるなど身の回りのことは自立心を持って積極的に取り組んでいる。また、自分で何かを汚した場合は、自分で処理しようとしたり、1人で困難な場合は保育者へ手伝いを求めることが出来ている。		

・一人ひとりの意欲を大切に、保育士自身も見守るように心がけて、できない所は一緒に言い、やり方を伝えて、子ども自信が達成感を味わえるように関わっていった。		
3	協同性	評価
		○
《共通》 ・おおもとの遊びを提供した上で、どうしたらもっと楽しく遊べるか、どうしたら皆が納得して遊べるかを考えるよう誘導しているのでは、出来ていると思う。 ・子ども同士の関わりの中で、子ども達だけで解決できそうなことは、静観して見守るよう（間に入りすぎないよう）心がけている。 ・椅子を片付けたり、友だちとおやつを運んだり、普段の生活の中で子ども同士で考え力を合わせて取り組むような機会を設けている。 ・友だちと一緒に遊ぶことで、ごっこ遊びや見立て遊びを楽しんだりすることができている。また、集団リズムや集団遊びをする中で、友達の思いに気づけるような声掛けをしている。 ・縄跳び編み、雑巾縫い、巾着作りなどの細かい作業に、友達と励ましあいながら取り組んだり、運動会や卒園式など、年長の課題は友達との関わりを深め、充実感を得ることにつながっていると思う。また、集団遊びを通して協同性を身につけていっていると感じる。 ・クラスの中で喧嘩やトラブルは多々あったが、その都度お互いの気持ちを言葉にして、スッキリした気持ちになれるよう心がけた。同じ遊びをみんなで楽しみながら、見る、参加するなどそれぞれの思いも大切に活動した。 ・松ぼっくりやどんぐりなど、自然物を使って遊ぶ中で、友達と同じ遊びを共有し、一緒に遊ぶなかで、お互いに譲り合ったり、遊びを工夫したりする姿がみられた。 ・友だちの意見を聞くこともできるが、まだ自己中心的な子が多く、おもちゃの貸し借りが難しかったり友達の後をただついて回っていたりする子が多い。自分たちで話し合うことが難しいため揉め事の時は間に入ってお互いの意見を伝えるようにしている。 ・日々の保育の中で、友だちと関わっている姿を見守り、必要以上に子どもへの声かけをするのではなく、子ども達に相手の気持ちや思いを自分で気づけるようにした。それでも自分たちで解決できないときだけ、双方の思いをお互いに伝えるパイプ役になり、保育士が決断するのではなく、最後まで自分たちで解決できるように声かけをした。 ・雑巾縫いや巾着づくり、鬼のお面作りではお互いに励まし合いながら出来た。 ・集団遊びを通してぶつかることもあったが自分たちで解決する姿も多くみられた。 《3歳未満児》 ・日頃から、全体で話す機会を設け、友だちと一緒に活動する場を増やすことで、協同性を養っている雰囲気作りを心がけてきた。 ・0歳児なので、まだまだ自分のことで精一杯だが、少しずつ友達の存在を意識して、同じことをしようとしたり、真似たりするようになってきた。 ・一人遊びからようやく友達との関わりが出来てきた。まだ、一人遊びが多い子もいるので、仲間意識を手助けしながら日々過ごしていきたい。 ・一歳児ということもあり子どもたち自身で協力し合うことは難しい場面もあるが、保育者の声掛けに反応して友達を助けようと動く姿が見られる。よく観察して真似をしようと工夫をしたり、箱椅子を移動させる際に、引きずるのではなくどのような持ち方をしたら良いかを見て真似しようとする姿がある。 ・友達と何か協同で行うことは年齢的にまだ難しかった。 ・友だちと一緒に遊ぶことで、お互いの気持ちに気づき、相手を思いやる気持ちが芽生えている。また、集団リズムや集団遊びをする中で、異年齢との関わりも大切に出来ている。		
4	道徳性・規範意識の芽生え	評価
		○
《共通》		

- ・子どもの発する好ましくない言葉や言動を、どうして好ましくないのか、どうしてそのような言葉を使ったのか（背景）を想像して、指導につなげていきたい。
- ・友達同士のトラブルが起きた際、「相手はどう思うかな？」や「〇〇さんも△△と思ったんだって」と代弁したり、考える場を設けているので出来ていると思う。
- ・自分の声かけや対応が正解かはわからないが、トラブルの際には年齢が上の子ほど、相互の意見を引き出し互いが納得できるよう対応することを心がけている。
- ・日常生活の中で、なにかトラブルが起きたときにはしてよいこと悪いことの区別をつけ考えて行動するように話したり、自分のされて嫌なことはしないなど相手の気持ちを考えて行動することが出来るように話したりしている。
- ・日々の遊びの中で友達とのトラブルもあるが、相手の気持ちに気づく経験を重ねることで、折り合いをつけようとする姿も見られる。園全体でのルール（ものの使い方や置き場所など）やクラス内の約束事など定着の難しさがある。
- ・泣いてしまった友達との関わり方、言い合いになった時にどのように対応するかを見守り、状況に応じて助言や仲介をするようにしている。
- ・ルールを提示することも大切だが、子どもたち自身で考えられるような声掛けを意識した。保育者が言わなくても気づいた子ども同士で伝えあったり、ともに考える時間を作ることで、していいこと、悪いことを理解できるようになると考えた。
- ・言葉の理解ができるようになると、少しずつ保育士の言っていることがわかるようになり、気持ちの折り合いが付けれるようになってきた。
- ・友達同士のトラブルを見ていた周りの子が、状況を判断し、諭すような言葉をかけたり、友達の思いに寄り添うような素振りを見せたりするようになった。
- ・していいこと、悪いことの区別はついてはいるが、部屋を走り回ったり悪いことにつられてしまう子が多くいる。クラスでルールについて話す場を設ける必要があると思う。
- ・製作、クッキング、日々の生活で、自分が子どもたちに伝える言葉が多すぎることがあった。
- ・1～10までを伝えるのではなく、自分たちで次はどうかを考える時間もおもった。
- ・子ども同士トラブルになると自分たちで話し合いを行い解決できるように見守っていた。

《3歳未満児》

- ・子どもたちの疑問や困ったことを、保育者自身が、一緒に考えたり、気持ちを共有したりしながら、納得のいくよう、問題解決に努めてきた。
- ・叩いたり、友だちの物をとったりした際に、注意だけするのではなく、相手の気持ちを添えることで、していいことやいけない事が少しずつだが分かるようになってきている。
- ・日々の遊びの中で、友達との物の取り合いを通じて、自分達で解決する姿も見られる用になった。前半は、噛みつきも多かったが、言葉で伝えようとする姿もあり、相手の気持ちも分かるようになってきている。
- ・イヤイヤ期でもあり自分の思い通りにいかないと気持ちを抑えることが難しく、友達に手が出てしまうことがある。言葉が増えてきた年齢ではあるが相手に伝わるように言葉を選ぶことは難しいため保育者が介入して話をする場面が多くある。その都度していいことと悪いことを伝えている。
- ・遊びの中でトラブルがあっても、相手の気持ちを考え善悪の判断が出来るようになった。そのため自分から謝ったり、仲直りをする姿も見られる。
- ・日々おもちゃの取り合いなどの友達間でのトラブルが起きても保育者は怪我がないよう見守る程度で積極的な仲裁はしないことで、子ども自ら考えトラブルに対処する力、泣いている友達を労わる優しい心が育っていると感じる。友達を泣かせてしまった場合には保育士が「痛かったよ」「嫌だったよ」と気持ちを代弁して伝えるよう心掛けた。

		評価
5	社会生活との関わり	○
《共通》 ・挨拶をしたり、公共の施設の使い方を教えたりしているのでできていると思う。ただ、情報を伝え合う、活用するという点はできていないのかも知れない。		

- ・自分自身が地域の人と関わる際しっかり挨拶をし、園外活動に出た際には、公共の施設を大切にす
るよう声かけをしているので、方向性に沿っていると思う。
- ・散歩に出かけたときは、地域の人に挨拶をする、地域の人と会話をする等地域との関わりを持つ機
会が多い。また、地域のお祭りに参加したり、地域の神社へ行ったりと地域に親しみを持つ機会もつ
くっている。
- ・園外に散歩に出る機会が増え、地域の人と挨拶を交わしたり、公園での遊び方や交通ルールについ
て話し、子どもたちも保育者と共に意識するようになった。
- ・散歩で地域の方と挨拶を交わしたり、公共の施設や交通機関を利用する機会においては、社会生活
との関わりが十分にできていると思うので、このような機会を増やしていきたい。
- ・子どもたちと話すときは聞くことを大切にし、質問をしたり、もっと話したいと思えるようななか
わりをすることで、人を大切にするこことつながっていると考えます。散歩途中に挨拶を交わしたり、
必要な持ち物があるときはお便りではなく、子ども自身で保護者に伝えるなど社会とのつながりを意
識できた。
- ・散歩で外に出た際には近所の方々に挨拶をすることを伝えている。まだ恥ずかしくてできないこと
があるが保育者があいさつをする姿を見せることで手本となるようにしている。また、散歩で行った
先の公園などの施設での過ごし方や使い方はその都度伝え怪我や破損に繋がらないように見守って
いる。
- ・お手伝いを好んで取り組めるようになり、褒められるとうれしくなり、意欲的に取り組む様子が見
られるようになった。
- ・保護者参観の時にはいいところを見てもらおうと頑張っていたり散歩ですれ違う人へ挨拶をしたり
する姿が見られた。公園に行くときなど、きれいにしてくれている人がいるから気持ちよく遊べてい
ることを伝え、大きくなってからも自然を大切に出来るように促していく。
- ・散歩に出かけたときは、すれ違う人達に率先して挨拶をしたり、交通ルールを教えたり、公共の場
では他の人達もいるので、迷惑をかけないように、みんなで遊ぶ場などを意識させるようにした。
- ・散歩で地域の方と挨拶を積極的にする姿や交通機関や公共施設を利用することもありその場所での
ルールを守ることが出来た。

《3歳未満児》

- ・天気の良い日には、散歩に出かけ、道中すれ違う地域の方々や挨拶や言葉を交わすことができた
と思う。また、いつでもどこでも笑顔を忘れないように心がけた。
- ・散歩に出かけ、すれ違う人に挨拶する中で地域の人と触れ合う機会はあったが、多く関わる機会は
持つことが出来なかった。地域へ目を向けた活動はあまり出来なかった。
- ・特定の大人とばかりの生活が多いので、地域の方との触れ合いはあまりできなかった。園外に行く
機会も少なかったように思う。
- ・散歩で園外に出かけ、近所の人と挨拶を交わすことで小さい年齢でも地域の方々との関わりがで
きたのではないかと感じる。また人の家の敷地には入らない、勝手に花を採らないなど社会のルールを
子ども達に伝えるよう心掛けた。
- ・散歩で戸外へ出る機会は多いが、すれ違う方や地域の方にと挨拶をする子が少ないため、挨拶を交
わす気持ちよさを伝えていきたいと思う。公園での遊び方や公共交通機関の利用の仕方やマナーにつ
いては意識するようになった。

6 思考力の芽生え		評価
		○
《共通》 ・ほしい草花がうまく取れなかったときや、限りあるおもちゃをどう使うかなど、「どうしたらいいかな？」や「何か○○できるものがあるといいよね」など、ヒントを与えられていると思う。 ・やりたいことを、「むずかしくてできない」「わからない」と言う子には、「○○くんが上手だよ」と他児と関わるような声かけをし、友達から学べるような対応を心がけている。 ・製作活動では、子ども自身が色や素材を選ぶなど子ども自身の好きなように自由に製作ができるよう意識している。		

- ・季節の移り変わりの中で動植物の変化や自然の変化など自分が感じたことを積極的に話し、友だちと共有することで、さらに興味を広げることが出来ている。既製の玩具だけでなく、身近なものを使って、友達同士で工夫して遊ぶことが出来ている。
- ・友達との間で様々な考え方があることに気づき、新しい考えを生み出す機会を大切にしながらも、間違った認識にならないように、いろんな考え方があることを伝えるようにしている。
- ・動植物に興味を持ち、名前を覚えたり、疑問に思ったことを子どもたち同士で話し合ったりする姿がある。相手の話を聞くことで新たな発見へとつながり、刺激し合える環境が大切である。
- ・おしゃべりが上手になると、興味を持ったことを保育士に尋ねたり、友達に話したりする様子が見られるようになった。保育士や友だちと話す中で、自分の思いを一生懸命話す様子も見られた。
- ・ブロック遊びや積み木遊びをするときに、友達数名でひとつの家を作り、会話を楽しみながら、寝る場所やご飯を食べる場所など考えている姿も見られるが、まだひとり遊びを楽しんでいる子もいる。
- ・描画などでは、その子の思いやイメージを大切にしよう心掛けた。褒めすぎると他の子ども達が影響され、自分の思い描いていたイメージが崩れ、真似をした描画になってしまうので、子どもが話してくれる思いや気持ちを大事に受け止め、その子だけに聞こえる声かけをした。
- ・自分が感じたことを積極的に話し友だちと共有することで興味を広げることが出来ている。園庭では身近なものを使って工夫して遊ぶことが出来ている。

《3歳未満児》

- ・園外保育で見つけた草花や虫探しなどを通して、成長や変化を観察したりしながら、想像力を豊かにする機会を作った。
- ・保育士が何か働きかけてという面においては、意識的には取り組めていなかったように思う。
- ・一歳児にとっては、難しい課題でもある。
- ・「なんで？」と身近な事象や絵本の物語に疑問を持ち、尋ねるようになった。まずは「なんでだと思う？」と子どもの意見を聞いたり、一緒に考えることで自由な発想を広げていった。
- ・一人遊びから友達と一緒に遊ぶことが増えて、協力して物を運んだり、何をしてほしいと友達に頼んだりと考えて工夫する姿が見られる。しかし、物の取り合いになったり、見ていない間に使っていたものを取られたり、やりたいことが異なり喧嘩に発展することもある。保育者が見守り楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか提案をしたり気持ちを汲み取っている。
- ・年齢的に友達の様々な考えを感じることは難しかったが、「外に行くよ」と声を掛けると帽子を自ら持ってきたり、友だちに持って行ってあげたりと先を想像して行動する思考力が育ったと思う。

7	自然との関わり・生命尊重	評価
		○
《共通》 ・散歩にて、バッタやてんとう虫を連れて帰ることがあった。園で虫との触れ合い方について乱暴であったり、死んでしまった時に虫の気持ちを考える機会として話をしているので、できていると思う。 ・季節に応じて、特に年齢の低い子どもには「お水が気持ちいいね」「風が冷たくて寒いね」など、自然を感じるような声かけを、年齢の高い子は雪遊びを一緒にしたりする中で、子どもと一緒に遊びや発見などしているので、方向性に沿っていると思う。 ・園庭にはない植物や虫を見つけるために散歩へ出かけたり、散歩先で見つけた花や虫を保育所に持ち帰り全体で遊んだりなど、自然と関わる活動は多く取り入れている。 ・水遊びでは、水や砂・泥などにふれ、砂の重さや水の変化などを実体験を通して様々な気づきがあった。虫や幼虫を飼育し、命の大切さを身近に感じる事ができた。 ・水や土、石に触れて遊び、畑で野菜や花を育て、生き物を飼育することで自然との関わりが十分にでき、身近な命を大切に育てる機会になっていると感じる。捕まえた虫などを大切にすることができるよう飼育環境を整える。 ・清水山登山では、山道を通りながら動植物に触れ、見たことある！と以前の発見を思い出す子どももいた。散歩で摘んできた草花を部屋に飾ったり、クワガタを育てたりして、命について触れることができた。		

・トンボやカエル、ちょうちょなどに関心を抱き、興味が出たタイミングで絵本や保育士の話などから、さらに関心を深められた。幼い子どもに命の大切さを伝えるため始めの段階として、生き物に関心を持つこと、よく観察すること、そっと扱うことなどを丁寧にいっしょに行った。 ・年長が育てている野菜に興味をもったり、虫を見つけたら捕まえて葉っぱなどを入れて観察する子もいる。一方、手で虫を強く握り死んでしまったり、咲いている花をちぎったりする姿もある。小さくても命があるということを伝え、生き物や植物の大切さを教えていきたい。 ・散歩では季節の草花や昆虫など、子ども達と探したり、捕まえたりと一緒に楽しく草花を容器に入れ飾ったり、捕まえた虫や幼虫の世話をしたり、死んでしまった時は一緒に悲しんだり、命の尊さを感じることが出来た。今年はカブトムシの幼虫をみんなで育ててるので、無事に成虫になれるか楽しみだ。 ・散歩の時間ではその季節ならではの草花やどんぐり、まつぼっくりを拾ったり、虫をみつけ世話をする姿も見られた。 ・カブトムシやカニの飼育を行い命の大切さを学ぶことが出来た。 《3歳未満児》 ・保育所での飼っている生き物に餌をあげて、子どもたちと観察し、生命の尊さを共感し合った。 ・戸外遊びや散歩を通して、季節に応じての自然の変化を一緒に見たり、感じたりすることができた。子どもたち自身も興味、関心を持ち、気持ちを共有できた。散歩では、鳥や魚などを見る機会があり、興味を示しつつも、関わり方までには至っていない。 ・戸外に出て、草花、枯れ木、葉、虫、鳥、とできるだけ触れ合うようにした。大人の発見を子ども達に伝える努力をした。 ・園庭に植えてある植物に興味があり木の実や葉っぱを摘むことがある。大きく育っている途中であることを伝え、大切に触れられるように伝えている。未満児ということもあり園外保育が少ないこともあり自然と関わる機会が少ない為、散歩で自然に触れる機会を増やしていきたい。 ・虫を触ったり、散歩先で猫を見かけたり、草花を採ることで自然や生き物と関わる事ができた。 ・散歩では、季節の草花や虫など、子ども達と一緒に探したり、捕まえたりした。虫にも同じ命があることを伝え、捕まえた虫を観察、世話をしたり、死んでしまった時は一緒に悲しんだり、命の尊さを感じることが出来た。		
8	数量・図形、文字等への関心・感覚	評価
		○
《共通》 ・数字に興味を持ち、「1があった!」と聞かれた際、「そうね、1だね。他にもあるかな?」と一緒に探すがあった。できていると思う。 ・数字の入った手遊びなどはするものの、自分の対応や声かけを振り返ると十分とは言えないと思う。 ・おやつクッキーの数を数えて入れたり、どんぐりを同じ形で分けたりなど日常の中で数量・図形等に関心を持つことが出来るように取り組んでいる。 ・図形や文字にふれる機会は少ないが、園外では木の枝の数を数えたり、葉の形を見立てて遊んだりした。 ・カレンダーや連絡ノートで、数字や自分・友だちの名前に触れる機会を設け、関心がもてるようにしている。また、絵本をいつでも見られるようにすることは、数字や文字、図形等への関心を広げることにつながっていると思う。 ・数字のカードを作り、同じ数字を見つける遊びをしたり、カルタを通して文字に親しむことができるようにあそびの中で取り入れることを心かけた。保育室には月の満ち欠けのポスターを掲示し、空への関心も持つことができるように意識した。 ・もう一回!や、一つ、などの簡単な数に関心を持ち、友だちの影響もあって知らない子も真似をし、覚えて使うようになっていた。 ・散歩のときに車の標識などを気にすることなく、子どもたちと考える機会がなかった。文字に関しては絵本を通じて自分で読んだり人に読み聞かせをしたりする姿があり、興味をもっている。 ・おやつ時のクッキーなど、子ども達と一緒に数を数えたりした。去年から取り組んでいる事なの		

で、だいぶんスムーズに分かるようになってきた。また、給食の配膳などでは、自分のグループが何人いるかななどにも興味が持てるよう取り組んだ。		
・遊びの時間、給食時間を通して時間に興味を持ち時計を見て動くことが増えた。		
・絵本を通して図形でみた形を身の回りでも探す姿もみられ楽しく数字や図形に触れ合えた。		
《3歳未満児》		
・毎朝のお便り帳やシール張り、身辺整理をする中で、自分のものと友だちのものとの区別が自然と身につくようになった。		
・まだ数の概念は、漠然としているものの、大きい、小さいや、長い、短いなどの形を認識できるようになってきている。遊びや生活の中で保育士が子どもの興味に合わせた言葉かけができていていると思う		
・1歳児にとっては難しかった。		
・文字が読めないため色や形で興味を惹きつけている。園外では止まれの標識を見て「あか！」と言うことがあり色を認識し始めている。文字は読めないが止まる場所であることを伝え覚えていている。また、色を使った指人形で色を覚えて興味を持ち始めている為、色から違う視点に興味を持てるようにつなげたい。		
・図形や文字にふれる機会は少ないが、朝の集まりで子ども達の数数を数えたり、拾ってきたものの数を数えたりはした。		
・年齢的に上記のことにまだ興味関心は薄いように感じた。誕生日を迎えた子に「1歳だね」と指で示したり、「何歳ですか？」というやりとりを行った。また日々の出席人数を朝の絵本後に歌を交えて数えて、「今日は〇人です」と伝えるようにした。		
9	言葉による伝え合い	評価
		◎
《共通》		
・正しい言葉、文章で話せるように、「〇〇だよ。」と教えることがよくある。また、「今は先生がお話ししているから、今は聞いてね」と促すこともあった。		
・子どもの話をよく聞き、応答するよう心がけている。		
・毎日朝の集まりや午睡前などに絵本の読み聞かせを行っている。		
また、子ども自身に対して自分の気持ちを言葉で伝えるよう話をしたり、言葉にすることが難しい場合は保育士が言語化して言葉で相手に伝えることが出来るよう援助をするような関わりを意識している。		
・絵本や紙芝居に興味を持ち、意欲的に聞くことが出来ている。また、自分の気持ちを言葉で伝えるような関わりをした。		
・子どもとの会話時に、姿勢や視線を合わせることで、子どもとの会話がより続くように意識して接している。クラスの中で友達の前で発表する機会をつくったり、グループ毎に意見を話し合ったりまとめたりする時間をつくることは、言葉を使う機会になっていると思う。		
・新しい絵本だけでなく、昔話などの絵本を見たり、読んだ後はどのような内容だったのかを子どもたちと話すように心がけた。見る力に加えて、聞く力を育むために朗読することもあった。		
・絵本や手遊び、歌遊び、ふれあい遊びなどを通して、言葉で自分の思いを伝えられるうれしさを感じられるようになった。		
・長い絵本も物語に集中して真剣に聞いている子が増えてきた。読んだ後には歌のフレーズを口ずさんでいたり、またあの絵本読んでと内容を覚えていたりしている。読んだ後に意見を聞く機会を増やすと良いと思った。		
・絵本などは好きなので、読み聞かせをする機会を多く設けた。自分の言いたいこと、伝えたいことがまだ上手く話せずに友達とトラブルになることもあるので、その時は保育士も間に入り、一緒に気持ちを伝える、考えるようにした。		
・言葉にすることが得意な子には沢山話を聞き表現力を伸ばし、上手く言葉に出来ない子にはゆっくり話を聞ける環境を作り少しでも表現できるような声かけを行う。同じ目線で話すことを大事にしていく。		

《3歳未満児》 ・集団での活動はもちろんのこと、一対一での関わりを大切にし、聞く力や伝える力が少しずつ身につくように、会話をする機会をたくさん作り、話すことや表現することの楽しさを知ってもらうよう心がけてきた。 ・絵本の読み聞かせは毎日行っており、子どもたちの興味関心があるものを選び、繰り返しある言葉を一緒に覚えて言うことや、擬音語を楽しんでいる。子ども達の話そうとする気持ちを大切に、一人ひとりに耳を傾け、気持ちに寄り添えるように心掛けています。 ・絵本の読み聞かせを大事にし、子ども達の反応を見ながら、言葉の習得につながるような声かけを大切にしました。 ・絵本に興味がある子が多く、保育者の動きや台詞を真似して覚えている。絵本に出てきた動物や色、食べ物、乗り物を見て名前を口にしたり、「ここで見た！」など思い出したことを自分の言葉で伝えることが出来たり。また、友達を傷つけてしまっている子やしてはいけないことをしている子を見た際に、「ダメよ！」と言葉で伝えたり手を広げて守ろうとする姿がある。 ・毎日朝のおやつ後に子どもたちが興味を持つのはどのような絵本か考えて、子ども達が楽しめるように読み聞かせを行った。気に入ったフレーズや物の名前を絵本を通して言葉として習得することができたと感じる。 ・絵本や紙芝居に興味を持ち、意欲的に集中して聞くことが出来ている。また自分の気持ちや経験したことを言葉で話せるようになり、全体の前で話す機会なども設けた。		
10	豊かな感性と表現	評価 ○
《共通》 ・外でおもちゃを石や手で叩きドラムのようにして音を楽しんでいる子がいた。そのうち、その音に合わせ踊る子も出てきた。一緒になって踊ることにより音やダンスを楽しめた。 ・製作などの際、子どもの完成品のよいところを見つけて褒めるよう心がけている。 ・行事後には描画の活動を取り入れ、感じたことを絵で表す活動を行っている。 ・一緒に見立て遊びをし、楽しい経験を友だちと共有することが出来ている。自然物の色や形の違いに気づき、製作に取り入れ作品作りを通して、表現を楽しんでいる。また、友だちの頑張りをみんなで見守る機会を作った。 ・リズム遊びに取り組む中で、自己表現を楽しんだり、友達との触れ合いの時間をつくったりすることは、子どもの感性を育てる機会になっていると思う。 ・自己表現を育むために、自分自身を画用紙に描き、その絵を使って保育室内に街を作ったり、風船を使って出かけてみたりする活動を取り入れた。上手下手かではなく、自由な表現を認めてもらえるという理解できれば、子どもたちの表現がより豊かになると考えて活動できた。 ・言葉や表情などで自分の気持ちを表現し、友だちや保育士とのやり取りを楽しんだり、時にはケンカをしたりする姿が見られた。泣いて訴えるだけでなく、言葉の獲得と共に、表現の仕方に変化がみられた。 ・リズムの音を聞いて動物や虫になりきって表現することが上手になってきた。また絵画でも人の絵を描いたり、食べ物を描いたりして自分なりに考えながら描く姿が見られる。 ・描画、リズム、遊び、製作など、子ども一人ひとりの表現を大事にした。特に製作では、世界に一つだけの作品が出来、子ども達も作り上げた喜びを味わっていた。 ・描画ではその子の気持ちを大事に美術研修では成長過程や発達段階を学ぶことが出来た。 ・製作では難しく苦戦する子も多い中励ましあう姿が印象的だった。 《3歳未満児》 ・クラス全体で、様々な行事に参加する場を設け、一緒に喜んだり、感動したり、共有する環境を作ってきた。 ・友だちが大切にしている物も、同じように大切にすることを育つような言葉かけを心がけた。 ・泥んこ遊びや、水遊びなど保育士も一緒になって遊ぶことを楽しみ、子ども達一人ひとりが表現することを喜び、それに寄り添える気持ちを大切にできていると思う。		

- ・表現することを、言葉だけでなく、表情、動作をくみとってあげることが大事にした。
- ・スキンシップを心がけた。
- ・製作活動では完成形を意識せずに子どもが思いのままに楽しくダイナミックに表現することを大切にしている。目に付いたものを好きにちぎったり貼ったりと満足できるように材料を用意して、表現できるような環境を整えている。友達の作品を見て「すごい！」など褒めて互いに気持ちのいい言葉かけをして喜びあっている。
- ・自然の素材を製作に取り入れ、木の枝一つでも形や大きさなど気づいて、自身で選択していくことで表現を楽しんだ。また友だち同士で見せ合ったりして、作品を認め合う機会もあった。

2 保育の実施及び保育所運営に関する項目

1. 子どもの権利

近年、多文化の共生や、家族形態の多様化、子どもの特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子どもに寄り添う保育が必要になっています。また、子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、安心して生活できる環境を提供することが大切です。

一人ひとりの生活習慣や文化などの違いを知り、それを認めあう心を育てよう努めている。	◎
おむつ交換やトイレ、着替え（プール含む）の際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。	○

2. 職員に求められる資質

保育の質の維持・向上を実現する基本は、職員一人ひとりの資質です。職員が職務に責任感を持ち、子どもや保護者の見本となる人権感覚や倫理観を持ち、保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かしており、向上心を持って取り組んでいる。	○
研修、書籍、他園との交流等から、自身の保育の課題や不足している知識・技術の習得の機会を持つようとしている。	○

3. 保育環境

保育施設は、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。思いきり身体を動かす活動ができる環境、遊びこむことができる環境、くつろげる環境、身近な動植物や自然事象に接する機会など、子どもが興味・関心を持ち、関わりたくなるような保育環境が重要です。また、常に子どもの健康と安全に気を配り、子どもが安心して安全に過ごせる環境を保育施設全体で整える必要があります。

施設内の設備・遊具等の点検が行われ、点検に基づき危険個所の整備が迅速に行われており安全な保育環境が保たれている。	○
施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、イスやテーブルなどの子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。	◎

4. 保育内容

保育施設における保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように保育を展開します。

職員全体が、めざす子どもの育ちの道筋、子ども像を共有している。	○
---------------------------------	---

5. 生活と遊びの中の教育

子どもたちは、遊びを通して言葉や数、表現する力などを身に付けていきます。

乳幼児期においては、言葉かけやスキンシップ、成長発達に応じた様々な玩具や絵本との出会いや子ども同士の関わり合いなど様々な体験を通して、意欲・関心を培い、未来へ向かって生きる力を育むことが重要です。

周辺施設や地域と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。	○
---	---